

産学官連携イベントレポート

『第14回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会』審査会・表彰式レポート

平成30年3月6日（金）、霞山（かざん）会館（東京都千代田区霞が関）で『第14回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会』が開催され、8地区（北海道・東北・東京・中部・大阪・中国・四国・九州）の「学生によるビジネスプランの提案コンテスト」のエリア代表プラン（13件）の中から、ビジネス・テクノロジーの各大賞と特別賞が決定しました。

中国地域からは、広島商船高等専門学校の安森さん（プラン名『メロディー☆アート』）、山口県立大学の河野さん（プラン名『知っちゃう？サイクル県やまぐち～レンタサイクル×放置自転車＝エコサイクル～』）が出演されました。お二人とも、斬新なアイデアと工夫を凝らしたプレゼンで健闘されましたが、惜しくも受賞を逃しました。

審査委員長（各務 東大教授）から、「①新規性・独自性、②実行性・市場性、③表現力・魅力、の観点から審査を行ったが、今年は掛け値なしにレベルが高く、自分自身の体験を通して、当事者として問題を解決したいという想いが強く伝わり、既に実践をとまなっていることが更にレベルを上げている」、との講評がありました。また、今後大きな壁に当たっても、学生時代に培った問題解決に取り組む意識大変役に立と激励がありました。

以下に受賞者およびその提案内容の概要を紹介します。



第14回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会に出場された皆さん

《受賞プラン紹介》

○ ビジネス部門大賞（経済産業大臣賞）

筑波大学 木村 友輔 さん

『トレーニング共有プラットフォーム「シェアトレ」』

少年サッカーなど、スポーツ関連指導者(ほとんどはプロコーチではなく、仕事を抱えながらボランティアで指導している)の負担を軽減する。もっとも大変なのは、練習メニューの作成との声が多い。この状況を改善するため、練習メニュー(動画)をプラットフォームで共有できるシステムを開発した。全国の指導者が自分の持っている練習メニューを投稿・共有・蓄積する。プロコーチは投稿によって報酬を得、アマチュアコーチは会費制でその練習メニューを参考にする。また、筑波大学の体育専門学部の学術的な情報も発信する。このサイトを1年前にスタートさせ、現在月間30万ビュー、4万人/月訪れている(国内指導者の半数)。この実績から、日本サッカー協会とパートナーシップを結ぶことができおり、協会が提供する練習メニューなどもアップし、協会と連携した物品販売も可能となっている。現在は広告料収入であるが、将来的にチームアカウントによる収入も考えている。また、野球など国民的に人気の高いスポーツへの拡大、および海外展開を開始している。

○ テクノロジー部門大賞（文部科学大臣賞）

宮崎大学 木下 大輔 さん

『障がい者情報プラットフォーム TOBE』

「日常の課題から社会を変える」ビジョンを持っている。障がい者にとって、宮崎から東京に移動するだけでも、健常者とは異なり数多くの手続きが必要となる(障がいの程度や車いすの寸法などを電話・Faxなどで通常の予約とは別に連絡することを求められる)。これを変えていくビジネスを行う。「TOBE」は障がい者専用のネット予約サービス。事前に必要な情報を登録しておくことで、通常のネット予約並みの簡便さを実現する。収益は、情報を受け取った企業側から得る(手数料)。手続きの簡略化により、企業側の負担が軽減される。現在航空会社は、障がい者の予約・登場手続きに2億円以上のコストをかけている。これを削減するとともに、障がい者に対する適切な対応が可能となる。まず実績を上げるため、紙媒体によるサービスを開始した(現在のユーザ数は200人)。この後、専門企業と提携して信頼性の高いシステムの開発を行い、将来的には航空会社等のシステムに組み込むことを考えている。

○ 審査委員会特別賞(2件)

同志社大学 池内 光流 さん

『Virtual Estate ～「新技術×新制度」次世代部屋探し～』

部屋探しの手間を省く、VR 内見事業を行う。店舗を訪れる必要がなく、スマホのみで契約まで可能とするシステムを目指す(完全無店舗)。気に入った物件について、客に URL コードとGoogleを送り、これにより内見を行う。昨年 10 月重要事項の説明を非対面でも実施することが制度上可能となったことから、店舗に行かずとも、全ての手続きを完了できる。京都から事業を開始し、その後全国展開を行う。物件管理会社からの広告料収入で運営。部屋探しに時間を割けない一定のニーズが存在する。この層をターゲットに事業を展開する。

鳥羽商船高等専門学校 村山 由莉依 さん

『You 魚キャッチャー』

観光客や遠隔地に住む消費者に海の幸の安全・安心を提供する。海中に沈めた仕掛け(籠)の収穫権利(1日)を消費者が購入し、収穫された魚が得られるビジネス。収穫出来なかった場合は、干物などの特産品を提供する。籠は地元の漁師が仕掛ける。漁業権の関係から籠の全量は決まっている。システム使用料を漁師から回収する。地域の活性化に繋がりたい。来月産業支援センター内に事務所を借り、営業を開始する。

○ 日刊工業新聞社賞

名古屋大学大学院 永津 豪 さん

『世界の食卓×旅行者「airKitchen」』

自分にとって忘れられない旅とは、現地の人と触れ合い、現地の家族とともに家庭料理を楽しんだ経験。この経験から、日本を旅する外国人旅行者が、日本の家庭料理を、日本の普通の家庭で楽しむサービスを考案し、昨年 8 月に開始した。このサービスは、訪日外国人と日本の一般家庭を繋ぐオンラインプラットフォーム。日本人ホストは、料理の内容などを登録し、外国人旅行者が希望するものを選択することでマッチングが成立する。体験価格を平均 5000 円/人程度に設定し、80%がホスト、20%が我々の収入。ホスト数は現在 200 人を超え、これまでに 12 人のマッチング実績あり。今後、日本人の国内旅行者向けサービスも行う。

○ JVCA(日本ベンチャーキャピタル協会)賞

筑波大学 木村 友輔 さん (経済産業大臣賞との複受賞)

『トレーニング共有プラットフォーム「シェアトレ」』

○ MIT(MIT ベンチャーフォーラム)賞

東京大学 平山 雄太

『3D プリンティングロボットによる高自由度建築事業』

曲線を多用した建築は人を引き付けるが、現状では、直線的で単調な建築が多い。曲線による改革を建築の世界に広げたい。

曲線的な建築が少ない理由は、その大きな建築コストに原因がある(直線に比べ 3 倍)。コストを下げるため、自走式の建築用 3D プリンタ(ロボット)を考案した。これであれば、型枠を使用せずに内壁・外壁を作成可能で、自由度の高い形状とできるとともに、型枠等を作成する人件費の削減が可能。また、3D プリンタ用の特殊な材料を開発しており、十分な強度を確保できている。火力発電所の廃棄物の利用も進めており、材料費・温室効果ガスの削減にも努めている。クレーンやロボットアームを利用した建築用 3D プリンタの試みが行われているが、自由度が少なく、なにより設備が巨大となりコスト削減に寄与できていない。

最初はエクステリアから事業を開始し、並行して強度・耐久性等の研究を進め、建築用として認可(建築基準法への適用)を得た後、本格的に建築事業を展開する。

○ 友達(米日カウンセリングジャパン)賞

宮崎大学 木下 大輔 (文部科学大臣賞と複受賞)

『障がい者情報プラットフォーム TOBE』

筑波大学 木村 友輔 さん (経済産業大臣賞、JVCA 賞との複受賞)

『トレーニング共有プラットフォーム「シェアトレ」』

香川大学 今出 雄太 さん

『Ani Voice ～分娩モニタリング装置を用いた牛農家サポートデバイス～』

祖父が経営する牛農家が、感染症により廃業した。生産現場を守りたく、農学部に進学し研究活動を行っている。生産現場の現状は、大変大きなリスクを持ちながら経営している。リスクには、発情を見分ける技術が確立されていない点、分娩時の事故、飼育管理(感染症対策)、の 3 点が上げられる。農家が簡便にリスク回避する手法として、牛の鳴き声(声紋)から牛の状態を分析し、事業者に知らせるシステム(世界初)を開発している。現状は 60%程度の検知精度。今後 AI 技術を導入し、検知精度 90%以上を目指している。他社は、牛の体温変化や動態から検知する手法で、いずれも検知精度は低い。本プランは、牛の鳴き声を利用することから、システムの

コストを低く抑え、かつ牛にとってストレスのかからない検知方法である点に優位性がある。現在国内に牛農家は6万軒ある。

北海学園大学 井上 智恵

『「悲しみを打ち明けやすい」社会を目指した、葬儀会社へのグリーフ(悲嘆)カウンセラー派遣事業』

自分自身の体験、葬儀会社でのインターンシップから、大切な人を失い深い悲しみにある残された人々のカウンセリングの重要性を知り、グリーフカウンセラー(有資格者)を派遣する事業(葬儀会社のアフターサービス支援)を立ち上げる。本プランの直接の顧客は葬儀会社。葬儀会社社員は、日々の業務に追われ、残された人々に対するケアまではできていない。社員自身の心理的負担も大きい。そこをカバーする。本当に助けが必要なのは、残された人々の10%と言われており(1000人/日)、このニーズに対応してカウンセラーの派遣をオンラインで仲介する。

○ 教職員審査員(文科省 Edge-Next 事業教員)賞

香川大学 今出 雄太 さん (友達賞と複受賞)

『Ani Voice ～分娩モニタリング装置を用いた牛農家サポートデバイス～』

今回は入賞を逃しましたが、他に以下の発表がありました。

・奈良先端科学技術大学院大学 大谷 修一 さん

『坐禅の普及および研究による社会貢献事業 ～禅繕全世～』

・山口県立大学 河野 ゆり さん

『知っちよる？サイクル県やまぐち ～レンタサイクル×放置自転車＝エコサイクル～』

・国際教養大学 黒崎 優人 さん

『留学生を利用した、東北の海外進出した企業向けテストマーケティングサービス』

・広島商船高等専門学校 安森 琢真 さん

『メロディー☆アート』

・北九州工業高等専門学校 藤原 雛子 さん

『スマートグラスで実現する介護シーンのRPA』

以上